

「日本語を教えるための日本語文法」

第8回

「行くつもりだ・行こうと思っている・行きたいと思っている」

山田 あき子

<http://yu-yu-jin.com/>

nihongo@yu-yu-jin.com

検討したいこと 「行くつもりだ・行こうと思っている・行きたいと思っている」の選択基準

提案したいこと 上記3つの表現方法が伝えていることを以下のように捉えること

- * 「行くつもりだ」は『行く』という行為を実行する意思は堅いが、実行できない可能性があること
- * 「行こうと思っている」は『行く』ということは計画・予定・段取りに入っていること
- * 「行きたいと思っている」は『行く』ということの実現の可否は不明だが、実現を希望・期待していること

1 はじめに

第7回の【【文₁】つもりだ】文₀では、<～ます>と<～つもりです>の選択基準を分らせることに焦点を絞りました。なぜなら、<～つもりです>を指導するまでの段階で、学習者が知っている、将来行う動作行為を表明する表現方法は、<～ます>だけですので、<～つもりです>を導入する時には、両者の選択基準についてのみに焦点を当ておけば良いからです。

しかし、前回も触れましたが、初級段階で指導されることが多い表現方法に絞っても、「夏休み、どうするんですか」と問われた場合、以下の対話例1に示したようにA・B・C・Dの異なる表現方法を選んで伝え分けられるようになります。

- 対話例1
- Q：夏休み、どうするんですか。
 - A：国へ帰ります。
 - B：国へ帰るつもりです。
 - C：国へ帰ろうと思っています。
 - D：国へ帰りたいと思っています。

以後、本稿ではA・B・C・Dの文末に現れている表現方法を、それぞれ<～る><～つもりだ><～意向形と思っている><～たいと思っている>と形式化して使っていきます。

A・B・C・Dいずれもこれから行う動作行為を伝えているという点で共通であり、大枠として『これから行う動作行為を伝える表現方法』に分類されます。しかし、A・B・C・Dはその大枠の中にある表現方法ですから、その各々の選択基準を明らかにしなければなりません。

<～たいと思っている>は<～たい>の用法の範疇で検討すべき表現方法でもありますが、「夏休みどうするのか」に誘発される応答の表現方法としてありうることを踏まえ、『これから行う動作行為を伝える表現方法』の一つとして、他のB・Cと並べて検討する必要があると考えています。

2 <～つもりだ>・<～意向形と思っている>

まず、B・Cの<～つもりだ>・<～意向形と思っている>について検討していきます。①「はじめに」で両者の選択基準について検討すべきことを述べました。しかし、文献、教科書の中には二つの表現方法は「ほぼ、同様な使い方をする」あるいは「同じ」と書かれている場合があります。また、その違いがあると捉えている場合も、決定・確信の度合いの強さ・弱さとしています。果たしてそれでいいのでしょうか。学習者にわからせられるのでしょうか。実例ⁱⁱを交えて検討していきます。

実例1 「……………どうも、魚を食べるのは苦手で、どうしても、肉のほうに、目がいってしまうんですよ。ですから、今日も、お二人を、ステーキハウスにご案内しようと思っているのですが、よろしいですか？」

……………

「もちろん、われわれだって、肉料理の方が、好きですよ」

……………

「いや、それを聞いて、安心しました。その代わり、うまい庄内牛と庄内米の店に、ご案内しますよ」

…………… (p54)

実例2 「昔、……………、致道館という藩校があったんですよ。刑事さんたちは、そのことを、ご存じでしたか？」

「ええ、……………。明日にでも、時間に余裕があったら、その致道館を見に行こうと思っていたんです」 (p55)

実例3 「……………。一応、われわれとしては、被害者の名前を木下圭介として、捜査を進めようと思っています。……………これが、現在までの、状況であります」 (p 71)

実例1～3の下線を施した<～意向形と思っている>を<～つもりだ>で置き換えてみると、どうでしょうか。

実例1' 「……………どうも、魚を食べるのは苦手で、どうしても、肉のほうに、目がいってしまうんですよ。ですから、今日も、お二人を、ステーキハウスにご案内するつもりなのですが、よろしいですか？」

実例2' 「昔、……………、致道館という藩校があったんですよ。刑事さんたちは、そのことを、ご存じでしたか」

「ええ、……………。明日にでも、時間に余裕があったら、その致道館を見に行くつもりだったんです」

実例3' 「……………。一応、われわれとしては、被害者の名前を木下圭介として、捜査を進めるつもりです。……………これが、現在までの、状況であります」 (p 71)

実例1'、2'、3'と実例1、2、3からは異なる印象を受けるのではないのでしょうか。小説の著者はそれぞれの発話者に<～つもりだ>ではなく、選んで<～意向形と思っている>で発話させているのだと言っているのでしょうか。

次に、対話例2で、確認しておきましょう。

- 対話例2 A : 帰り支度? どうしたの?
B①: 熱っぽいので、医者に寄って (?) 帰るつもりなんです。
帰ろうと思っているんです。
A : そう。お大事に。
明日の会議は大丈夫?
B②: 来るつもりですが、 万が一の場合はすみません。
(?) 来ようと思っていますが、

この対話例2での<つもりだ>と<意向形と思っている>との使い分けはどうでしょうか。

B①、B②の発話文について、文脈をいろいろ想像すると、これでいいのかと疑問に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、より良いという視点では、無標の発話文がより適切なのではないかと思います。どうでしょうか。「文脈によっては」という条件がつくというのも、<つもりだ>と<意向形と思っている>に使い分けのあることを示唆していると言っていいでしょう。

ですから、表現方法<つもりだ>と<意向形と思っている>を「ほぼ同様だ」あるいは「同じだ」と指導することは避けたほうがいいのではないかと考えています。

それではどのような選択基準があるのでしょうか。

実例1'からは押し付けの印象を受けますし、受け手の気持ちへの配慮を欠いている印象を受けます。発話者の「思い」として硬い決意が込められているように響きます。語彙としての<つもり>そのものが意思を伝えたいときに選ばれる語ですから、その意味合いが強くなることによるのでしょう。一方、<意向形と思っている>は計画している、スケジュールに入れている、あるいは段取りをしているといったことを伝えたいときに、用いられるのだと捉えたいと考えています。

実例2では重要な捜査を先行させ、そののち余裕があったら、行うことを考えている動作行為が<意向形と思っている>で伝えられています。実例3・3'についていえば、実例3'では、発話者が今後の行動について決めてかかろうとしていることが読み取れますし、実例3では、小説の読者は、発話者が捜査方針を述べているのだと理解して、読み進めるのではないのでしょうか。

さらに実例で検証してみましょう。

実例4 「これからどうします？」

「もちろん、これから山形に行って、問題の公益法人について、調べてみるつもりだ」

(p116)

実例5 「岩田は……不正や、殺人について、正直に、話してもらったつもりだったわけでしょう？そのことについて、先生には、どういっていたんですか？」

「……そのことを、私もききましたよ。……そう、ききましたよ」

「それで、岩田は、どう、……先生に、どう答えたんですか？」

「……公表してもらおう。これは、絶対に、やってもらおうと……言っていたんです。……自信があったんじゃないでしょうかね。」 (p181)

実例6 「……。無理矢理止めることは、できないので、退院を、許すつもりだと。医者はそういっていました」 (p226)

「……、見舞いに行った時は、一週間は、退院しないつもりだと、いっていたんだ。……お

そらく、外から、電話があったんだと思うね。そのために、明日、……………退院する気になったんだろ」(p226)

いずれの実例でも、<～つもりだ>は<～る>の表現方法とは違って断言はできないことを内包していますが、【【文₁】つもりだ】文₀で伝えられる【文₁】で示される動作行為を行うことについての決意が込められている印象を受けます。さらに、対話例2のB②で<～つもりだ>の表現方法の方が適切だと響くのも決意が込められているからだと言っていいでしょう。

<～意向形と思っている>はどうでしょうか。

実例7「……………昨日、後藤館長に電話をかけ、電話で、話を聞こうと思っていたんです。……………」
(p107)

実例8「そのことを、どうして、鶴岡警察署では、お話にならなかったんですか。」

「もちろん、時期が来たら、県警には、この話をしようと思っている。……………どうも、話していいものかどうか、迷ったんだ。そして、しばらくは黙っていようと決めた」(p115)

実例9「……………後輩の学生たちを呼んで、手伝わせていたと、思いますね。その中に、山崎義博もいたに、違いないんです。山崎は優秀な学生でしたからね。将来、自分が、理事長になる財団に山崎を入れようと思っていたらうし、現実には、彼は財団に、入っているんです。……………」(p159)

実例7、8に<～意向形と思っている>が用いられているのは、段取りとしての捜査手順を伝えたいからだと考えていいのではないのでしょうか。一方、実例9では、山崎は優秀な学生だから、その時期が来たら採用をするという人事計画として、伝えたいのだということによるのでしょうか。

ですから、動作行為を実行することについて断言はできないが、決心を持ってことに当たろうとしていることを伝えたい場合に、<～つもりだ>が使われ、動作行為を計画していること・予定に組み込んでいること・段取りとして考えていることとして、伝えたい場合に<～意向形と思っている>が選択されると言うていいのではないのでしょうか。

3 <～たいと思っている>

それでは<～たいと思っている>はどうでしょうか。

次の対話例3で、提案者が置かれている状況を勘案して、a・b・c・dの発話文のうち、最も適切だと思われる表現方法を検証しながら読み進めていきましょう。

対話例3

注 司会は提案者の上司を想定している。

提案者は一人で、提案者の発話文に①、②と番号を付してある。

司会 これから、第1回新規企画会議を始めます。検討中の案件の提案会ですから、ラフな案でもいいです。じゃ、始めましょう。

提案者 ①日本語プログラムの設置を提案します。

司会 企画内容は？

提案者 ②短期滞在者向けの講座を a () 作ります。
b () 作るつもりです。
c () 作ろうと思っています。
d (○) 作りたいと思っています。

提案者 ③日本語が実際に使われている現地で使ってみたと考えている人を
ターゲットに a () します。
b () するつもりです。
c () しようと思っています。
d (○) したいと思っています。

司会 需要はあるの？

提案者 ④タイやベトナムにはあると思うんですけど、
今後、本格的な a () リサーチを、是非します。
b () リサーチを、是非するつもりです。
c () リサーチを、是非しようと思っています。
d (○) リサーチを、是非したいと思っています。

司会 実際にはいつ頃から始められるの？

提案者 ⑤アジア諸国の夏休みの時期に a () 間に合わせます。
b () 間に合わせるつもりです。
c () 間に合わせようと思っています。
d (○) 間に合わせたいと思っています。

司会 じゃ、次回には詰めた企画書を提案してください。

提案者 ⑥はい。わかりました。 a (○) そうします。
b () そのつもりです。
c () そうしようと思っています。
d () そうしたいと思っています。

司会 会議の前に目を通しておきたいんだけど、できる？

提案者 ⑦はい。会議の2、3日前までに a (○) お持ちします。
b () お持ちするつもりです。
c () お持ちしようと思っています。
d () お持ちしたいと思っています。

押しが強い人だったり、企画にこの段階からでも自身のある人だったりしたら、異なる選択がありうるでしょうが、ラフな企画案という前提に立つと、①から⑤までは、<～たいと思っている>が適切だと思いますが、どうでしょうか。一方、⑥、⑦では、<～たいと思っている>と発話したのでは上司は満足しないでしょう。むしろ不満を持ち、評価が下がりがねません。

<～たい>が本来持っている希望・願望・期待を伝える機能が反映されていることもありますが、
【【文1】たい】文₀の【文1】のコトの実現については不明でありなんとも言えないが、できれば実現することを希望しているということを伝えたいときに、選ばれると言っていいのではないでしょう。
実例で検証してみましょう。

実例 10 「このまま帰るつもりですか？」

「いや、5時まで待って、職員が、出てくるのを捕まえて、話を聞くことにしたいと思っ
てるんだ。二十人もいれば、一人ぐらいは、本当のことをしゃべってくれる職員が、いるん
じゃないか？ そう思ってね」 (p122)

実例 11 「…………。医者に言われたんですよ。酒は、止めなくてもいいが、タバコは絶対に止めな
さい。肺がんになる恐れがある。そうって脅かされたので、止めたんです」

「そうですか。私も、タバコを止めたいと思っているのですが、なかなかできなくて。」と
……………」 (p 246)

実例 12 「……………乾杯しようじゃありませんか？」

「私の話を、皆さんに、きいていただきたい。乾杯は、その後にしましょう」

「これからまだ、何を、話そうというのですか？」

「10年前の事件、それが、まだ、引っ掛かっていますね。それを、もう少し、はっきりさせてから、乾杯に移りたいと思っているんです」 (p259)

実例 10 では、状況としては話をしてくれる人がいるかどうか分からないが、話を聞く期待を持っていること、実例 11 ではタバコを止められるかどうか分からないが、止める希望を持っていること。実例 12 では乾杯に移れることを期待しているが、事をはっきりさせることが前提であり、場合によっては実行することができないかもしれないといったことが伝えられています。小説の展開では、実際には乾杯に移れないことが発話者のみにはわかっている状況です。

4 まとめ

対話例 1 の (i) QB、(ii) QC、(iii) QD をその用法に応じて拡大し、適切な表現方法が選択されているかを確認する対話例を作ってみました。

Q：夏休み、どうするんですか。

A：国へ帰ります。

対話例 1 (i) Q：夏休み、どうするんですか。

B：国へ帰るつもりです。

X：帰れますか。

B：はい、大丈夫だと思います。

X：予約は？

B：まだですけど、夏休みのシフトが決まったらすぐ予約をします。

【ほぼ確実に帰国できる】

対話例 1 (ii) Q：夏休み、どうするんですか。

C：国へ帰ろうと思っています。

X：帰れそうですか。

C：はい、大丈夫だろうと思っています。

休みの希望を出してありますし、代わりの人も頼んでありますから。

X：じゃ、大丈夫そうですね。

C：ええ。

【予定に組み込んでいる。段取りができています】

対話例 1 (iii) Q：夏休みどうするんですか。

D：国へ帰りたと思っています。

X：帰れそうですか？

D：そうですね……………。ちょっとわからないんです。

X: どうしてなの？

D: チケット、キャンセル待ちなんです。

X: そう。取れるといいですね。

D: ええ。

【帰国希望はあるが、不明要素がある】

5 指導 話題案

<～意向形と思っている>

予定・段取りが話題になるような話題

旅行・レポート執筆・プレゼンテーションの準備・研究過程・企画・家事など

<～たいと思っている>

実現したら嬉しい希望・期待などの話題

旅行・人生設計・企画（プロジェクト・飲み会・打ち上げ・余興）

i 同じ・ほぼ同じとする文献・指導書『日本語の教え方 ABC』

『『日本語表現文型』森田 良行、松木 正恵 アルク、1989

同じ・ほぼ同じとする教科書

『新文化初級 I II 教師用指導手引書』文化外国語専門学校、2006

ii 違いを決定度・確信度とする教科書

『ようこそ』 McGraw-Hill, Inc., 1994

『大学の日本語 ともだち vol.1,2』東京外国語大学出版会、2017

『みんなの日本語 初級II 翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク、2014 p 42

『みんなの日本語 初級II 教え方の手引き』スリーエーネットワーク、2008 p 67

iii 西村京太郎『羽越本線 北の追跡者』（2013）新潮文庫